

高岡市万葉歴史館

春の特別企画展

日本最初の万葉故地写真

平成26年4月23日(水)~6月9日(月)

『大和万葉古蹟写真』

辰巳利文・小川晴暘

立ち変はり古き都となりぬれば
道の芝草長く生ひにけり

(万葉集 卷六)

〈記念講演会〉「辰巳利文の見た大正昭和の万葉の風景」

日時 4月27日(日)午後1時30分から

会場 高岡市万葉歴史館講義室

講師 垣見 修司氏(同志社大学准教授、元高岡市万葉歴史館研究員)

講演終了後、講師によるギャラリートークを予定しています。

※聴講には入館料が必要です。

入館料=一般210円 団体(20人以上)170円 65歳以上160円 中学生以下無料 開館時間=午前9時~午後6時(入館は5時15分まで)

休館日=火曜日 5月6日(火)は臨時開館、5月7日(水)は振り替え休館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1-11-11 電話0766-44-5511 FAX0766-44-7335 <http://www.manreki.com>

「大和万葉古蹟写真」とは

「大和万葉古蹟写真」とは、『万葉集』の歌に登場する大和国（奈良県）の風景を撮影した日本最初の万葉故地写真です。『万葉集』研究者・辰巳利文が監修し、写真家・小川晴が撮影を担当、大正13年から昭和7年にかけて50枚の写真が販売されました。飛鳥や平城京、吉野を始めとする奈良県内各地や、番外編である京都府南部の恭仁京かいわいなど、当時の風景を記録した貴重な資料となっています。

「大和万葉古蹟写真」を取り入れた書籍も現れ、人びとの間に万葉故地を見ようと奈良県を訪ねる機運が高まり、のちの「万葉旅行」ブームのさきがけとなりました。

「大和万葉古蹟写真頒布会規定」より

……吾等同学の輩、身常にその景地にのぞみ、親しくその实景に接し、最も完全なるものを撮りこれを広く同学の士に頒たんとするものである。希はこの喜を共に相うけたまへ。

■ 辰巳 利文(たつみ としふみ 1898～1983)

奈良県南葛城郡（現在の御所市）に生まれる。県立奈良師範学校（現奈良教育大学）を卒業後、小学校で教鞭を執る傍ら、佐佐木信綱主宰の短歌結社「竹柏会」に所属、大阪朝日新聞奈良版歌壇の選者を務めた。

大正11年、機関誌「奈良文化」の刊行を開始。昭和11年の第30号に至る15年間、多彩な執筆陣を迎え『万葉集』研究の進展に貢献した。「奈良文化」が主催する学習講座や万葉故地への小旅行には、若き日の犬養孝氏も参加していた。



大和萬葉地理研究



上代の彫刻

■ 小川 晴陽(おがわ せいよう 1894～1960)

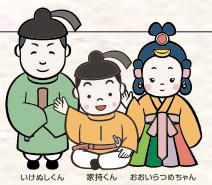
兵庫県姫路市に生まれる。本名、晴二。写真の師である丸木利陽（明治天皇の写真撮影した人物）からもらった「陽」の一字を「陽」に改め、以後、「小川晴陽」と名乗った。画家を志し、大正7年、25歳で第十二回文展（日展の前身）に出展した西洋画「雪解けの頃」が入選、当時は富山県高岡市に居住していた。その後大阪朝日新聞社に入社、奈良に住居を定める。

大正11年、会津八一の勧めにより「飛鳥園」を創業。仏像の撮影技法を高く評価され、志賀直哉を始め多くの文化人と親交があった。

（画像データ紹介）辰巳 利文著『大和万葉地理研究』（紅玉社、昭和4年刊）
上野 直昭著、写真・小川 晴陽『上代の彫刻』（朝日新聞社、昭和17年刊）

研究員による展示解説

1. 4月26日(土) 15時から
2. 5月10日(土) 16時から
3. 5月16日(金) 16時から



《交通のご案内》

- JR高岡駅より車で25分
- 能越自動車道高岡北ICより車で20分
- JR高岡駅正面口4番バスのりばよりバスで約25分乗車
…伏木一宮下車…徒歩7分
(西まわり古府循環・東まわり古府循環・西まわり伏木循環など)
- JR氷見線伏木駅より徒歩25分

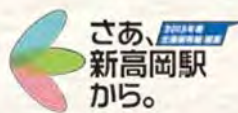
《交通のご案内》

- 開館時間 午前9時～午後6時(入館は午後5時15分まで)
- 休館日 火曜日(5月6日(火)は臨時開館、5月7日(水)は振り替え休館)
- 入館料 一般…210円 中学生以下無料
団体(20名以上)170円・65歳以上…160円

◎歴史館の最新情報、日々の出来事はこちら!

※ツイッター

- 家持くん @manreki
- 万葉人 高岡万葉歴史館館長 @akahitomusimaro
- おおいらつめちゃん @oiratsume



高岡市万葉歴史館

大和万葉古蹟写真を見めてつづつたる歌
いにしへの万葉人がながめけむ雲を流をまさ目にし見る

文学博士 佐佐木信綱